

高津大山街道マスタープラン



2009（平成 21）年 3 月
川崎市

はじめに

高津大山街道は、古くから信仰の道、物流の道、文化交流の道として栄えた街道であり、沿道及びその周辺には、歴史的・文化的資源が多数存在しています。

これまで高津大山街道では、平成15年度から、地域住民から成る「大山街道活性化推進協議会」が、街道の活性化のために具体的な活動を行ってきました。また、街道周辺地区では川崎市都市景観条例に基づく景観形成地区の指定を受けるなど、地域主体の景観まちづくりの取組も進められてきました。

一方で、街道沿いの商業の衰退や歴史的建造物の消失、通過交通による交通混雑や歩行の危険性など、様々な課題も依然残っています。

市では、これまでの地域の取組や現状の課題を踏まえ、街道及び周辺に残された歴史的・文化的資源を保全・活用し、魅力的な空間創造と地域活性化を図るため、「高津大山街道マスタープラン」を策定することとしました。

策定にあたっては、地域の方々や学識者、行政との市民協働で検討を進め、併せて、パブリックコメント手続の実施やフォーラムの開催等を通じ、広く市民意見を伺い、このたび「高津大山街道マスタープラン」がまとまりました。

今後は、市としてもこの計画に基づき、積極的に具体的な事業に取り組んでまいります。推進にあたっては、市民の皆様と協働で進めていくことが前提となっております。

実現のために、皆様の御参加と御協力をぜひともよろしくお願いいたします。

2009（平成21）年3月

高津区長 山崎 茂

高津大山街道マスタープランの構成

高津大山街道の特徴と課題

大山街道の特徴

- 大山参拝の信仰の道
 - ・江戸城赤坂御門から大山阿夫利神社へ
- 江戸と神奈川を結ぶ物流の道
 - ・東海道、甲州街道の脇往還
- 文人が集う文化交流の道
 - ・岡本かの子、岡本太郎、濱田庄司の生誕・育成の地
 - ・1642(寛永19)年創業の亀屋
 - ・国木田独歩「忘れ得ぬ人々」
 - ・自由民権運動の拠点
- 高津区のシンボルの道
 - ・高津区民祭、大山街道フェスタの開催
- 蔵づくりの建物が現存



大山街道の課題

- 消え行く歴史的な資源
 - ・老朽化による建替えやオーナーの世代交代、道路整備などを契機に姿を消してきた
- 商店街の衰退とマンション建設
 - ・立地条件の良さから、マンションへの建替えと同時に商店を廃業してしまう例が多い
- 交通混雑・歩行の危険が増大
 - ・通過交通量が多いが、幅員が狭いため、歩車分離が難しく、人身事故や車両事故の危険性が高まっている

これまでの取り組み

- 大山街道に関する計画、構想、提案等
 - ・高津大山街道活性化プラン
 - ・高津まちづくり白書「キラリたかつ」
 - ・歩きたくなる高津 等

景観行政の展開

- 大山街道都市景観形成地区
 - ・2005(平成17)年3月に地区指定、同月景観形成協議会が認定
 - ・2006(平成18)年1月、溝口地区にて「安全及び景観形成方針・基準」を策定

大山街道の将来像

暮らして安心 訪ねて楽しい 大山街道

住民が地域に誇りと愛着を持ち、安心して暮らせるまち
 多くの来街者が訪れ、憩い、学び、楽しめるまち
 住民と来街者の交流で「心の活性化」と「経済の活性化」が実現するまち



重点地域(キラリスポット)の設定

街道らしさを再現を図るため、街道の資源が一定の固まりとなっている地域を「重点地域(キラリスポット)」と位置づけ、重点的に整備する。



推進体制

- 市民協働による計画の推進
 - ・市民協働拠点としての区役所の総合調整機能の活用
 - ・大山街道活性化推進協議会を中心とした多様な連携による協働の推進体制の確立
- 計画の進行管理と評価
 - ・「川崎再生ACTIONシステム(事務事業総点検施策評価)」等の活用



目次

1. 高津大山街道マスタープランの位置づけ	1
(1) 計画の目的と位置づけ	
(2) 計画の範囲	
(3) 計画の期間	
(4) 計画の構成	
2. 高津大山街道の特徴と課題	4
(1) 大山街道の特徴	
(2) 大山街道の課題	
(3) これまでの取り組み	
(4) 景観行政の展開	
3. 将来像と基本方針	17
(1) 大山街道の将来像	
(2) 基本方針	
4. 推進方策	21
(1) アクションプログラム	
(2) 重点地域（キラリスポット）の設定	
5. 推進体制	30
(1) 市民協働による計画の推進	
(2) 計画の進行管理と評価	
資料編	32
高津大山街道マスタープラン策定委員会 委員名簿	
高津大山街道マスタープラン 策定経過	